

第13話 ロマンポルノの男優 その2

■GW 興行の失敗、そして復活

ロマンポルノが各種の映画賞を獲り社会的に評価されるようになった74年になると、さらに多彩な男優たちが入ってくる。

大島渚の盟友のひとりであり大島作品の常連俳優である戸浦六宏は、『続ためいき』（74年／監督・曾根中生）で主演の梢ひとみ演じるOLと深い仲になるダンディーな部長役で登場した。後に根岸吉太郎監督のデビュー作『情事の方程式』で、主人公の少年が反抗する対象である父親になって見せ場を作る。

前進座の創設メンバーである歌舞伎役者の四代目河原崎長十郎には長一郎、次郎、建三と3人の息子がおり全員俳優として活躍していた。そのうち次男の次郎が『すけばん刑事 ダーティ・マリー』（74年／監督・脚本・長谷部安春／言うまでもなく大ヒットした72年のアメリカ映画『ダーティ・ハリー』をもじっている）で凄腕女刑事（梢ひとみ）の相手役である敏腕刑事を演じている。

4月20日公開の『ダーティ・マリー』の次の番組で5月4日公開の『鍵』には、『喜劇女は度胸』（69年／監督・森崎東／主演・倍賞美津子、渥美清）、『男はつらいよ フーテンの寅』（70年／監督・森崎東／主演・渥美清、新珠三千代）の山田洋次脚本の喜劇で、渥美清の周囲にいる線の細い秀才として活躍した三男の建三が、主人公の老教授が若い妻にあてがう若い男の役で出演した。

ちなみに三兄弟の長男である長一郎も、79年に『もっとしなやかに もっとしたたかに』（監督・藤田敏八／主演・奥田瑛二、高沢順子）に出演している。

河原崎建三が出演した『鍵』は、谷崎潤一郎の名作を原作にしたロマンポルノ初の文芸ポルノだった。

当初のロマンポルノは、簡便に制作するため当然のことながら原作を使わないオリジナル脚本ばかりである。発足10ヶ月後の72年9月公開の『㊦女郎市場』が荒木一郎の小説「風流宿場女郎日記」を映画化したのが、初めての原作ものだった。翌73年9月の『番格バンカク 女子高校生のSEXと暴力の実態』、12月の『番格バンカク 関東SEX軍団』には「原作・前原大輔」とのクレジットがあるが、これはスケバンの世界に詳しいライターの手書いたルポ本だ。

73年11月公開の『四畳半襖の裏張り』は永井荷風「四畳半襖の下張」の映画化であり、一種の文芸ものと言える。ただ、これは荷風の小説の中に引用された春本「四畳半襖の下張」（金阜山人・作とあるものの、荷風の創作だと言われている）の部分を使ったものだ。同月に同時公開された泉大八原作『性教育ママ』、宇能鴻一郎原作『ためいき』の2本あたりから、原作もの路線が定着し始める。

74年1月の『実録エロ事師たち』、4月の『実録エロ事師たち 巡業花電車』は自身が吉原のポン引き＝エロ事師だった吉村平吉の実録小説の映画化で、どちらも殿山泰司がエロ事師役で主演している。

『鍵』は、原作と原作者の知名度を背景に74年のゴールデン・ウィーク作品として満を持して放たれた。

正月、ゴールデン・ウィーク、お盆というのが当時の映画興行の稼ぎ時である。それぞれ正月映画、ゴールデン・ウィーク映画、お盆映画と称される勝負作を投入するのが大手映画会社の常道だった。日活も、旧日活時代は石原裕次郎や吉永小百合の主演作で勝負していたのだが、ロマンポルノになってからはこの勝負から降りざるを得なくなっていた。72年、73年の初期は、これらの時期を普通の番組で通している。

『鍵』は、脚本・監督に神代辰巳を起用し、それまで上映時間1時間10分の枠を堅持し、こぼれても1時間20分までしか許されなかったものを初めて1時間30分の一般映画標準に挑戦させたのである。女優には、『喜劇 女売り出します』（72年／監督・森崎東／主演・森繁久彌、市原悦子）、『女囚さそり 第41雑居房』（72年／監督・伊藤俊也／主演・梶芽衣子）などの一般映画に出演していた荒砂ゆき、同じく谷崎作品「春琴抄」を近代映画協会が映画化した『賛歌』（72年／監督・新藤兼人）で春琴役に抜擢された新人・渡辺督子（現・渡辺とく子）の二人の新顔を起用した。

そんな中、前記の河原崎建三だけでなく、老教授役で近代映画協会の新藤兼人監督作品や創造社の大島渚監督作品で活躍した観世栄夫が主演し、殿山泰司やロマンポルノ初出演で後に『もっとしなやかに もっとしたたかに』にも出た加藤嘉といったベテラン脇役が顔を見せている。

二本立て公開されたもう一方の『ロスト・ラブーあぶら地獄ー』にも、東宝青春映画の脇役役者だった富川澈夫とともに、岸田森、砂塚秀夫が出演している。この映画は、前年「浮世絵の街」で大ヒットを飛ばした歌手・内田あかりが自ら主演して新曲「あぶら地獄」を映画化するという、歌謡ロマンポルノの走りである。歌手の扇ひろ子、ぴんから兄弟も顔を見せた。

他社のこの年のゴールデン・ウィーク作品は、松竹が井上順主演『ムツゴロウの結婚記』（監督・広瀬襄）と堺正章主演『街の灯』（監督・森崎東）、東宝が勝新太郎主演『悪名 縄張荒らし』（監督・増村保造）と若山富三郎主演『子連れ狼 地獄へ行くぞ！大五郎』（監督・黒田義之）、東映が菅原文太主演『山口組外伝 九州進攻作戦』（監督・山下耕作）と千葉真一主演『殺人拳2』（監督・小沢茂弘）であった。

結果は東映の一人勝ちとなり、ロマンポルノのゴールデン・ウィーク作品への挑戦は不発に終わる。その後の日活は、74年のお盆作品に秋吉久美子主演『妹』（監督・藤田敏八）と池玲子主演『黒い女豹 M』（監督・蔵原惟二）、75年のお正月作品に沢田研二・秋吉久美子の『炎の肖像』（監督・藤田敏八、加藤彰）と高橋洋子主演『宵待草』（監督・神代辰

已) と一般映画で勝負をかけるがこれも失敗した。

その後 77 年のお正月映画に、『嗚呼!! 花の応援団』(76 年/監督・曾根中生) の大ヒットに乗じた第 2 作『嗚呼!! 花の応援団 役者やのオー』(監督・曾根中生) と『サチコの幸』(監督・武田一成/主演・三浦リカ) の一般映画二本立てを試みるまでの間、稼ぎ時での勝負を避け、再び通常番組路線に戻ってしまうのである。

■有名俳優が続々出演

とはいえ、文芸エロス大作と歌謡ロマンポルノの二本立てがゴールデン・ウィーク興行に登場したこの時期あたりから、ロマンポルノと一般映画との間に意識されていた差別感が薄れてきたのは事実である。旧日活の大部屋俳優たちのみによって支えられてきた出発時からすると、外部の俳優たちの参入によって俳優陣の幅が徐々に広がってきた。

『ロスト・ラバー あぶら地獄-』に出た岸田森は、『黒薔薇昇天』では主人公のブルー・フィルム監督役で主演する。砂塚秀夫も、後に『女教師』で嫌味な男性教師を演じたほか『桃尻同級生 まちぶせ』まで総計 5 本に出演している。

他ではこの年、『四畳半襖の裏張り しりのび肌』に出演した子役出身で劇団青俳の花上晃(ロマンポルノへの主演 74-85)、『カルーセル麻紀 夜は私を濡らす』(監督・西村昭五郎)に出た青年座出身の宇南山宏(74-84)が常連出演者となっていく。『妻たちの性体験 夫の眼の前で、今…』の夫役などが印象深い宇南山は、残念ながら 84 年に自ら命を絶ってしまった。

75 年には、風間杜夫、鶴岡修に続く男子高生役俳優として『新・団地妻 夫婦交換』(監督・白鳥信一/主演・中島葵)で坂本長利の息子役で信太且久(75-80)が登場する。ロマンポルノの傑作青春映画『課外授業 熟れはじめ』などで少年役を好演した。

『主婦の体験レポート おんなの四畳半』で出てきたのが吉原正皓(75-88)である。20 本以上の作品に出演し、魁偉な容貌は目立ったが、おとなしい男の役が多かった。それでも最後の『団鬼六 妖艶能面地獄』での老サディスト兄弟の醜い弟の方を演じたときなど、長くロマンポルノに携わってきた迫力が備わっていたように思う。

またこの年、フォーク歌手の三上寛が『主婦の体験レポート 続おんなの四畳半』に出演した。『夫婦秘戯くらべ』(76 年/監督・武田一成/主演・宮下順子)では出演だけでなく音楽も担当している。『レイプハリケーン 裂く!!』(79 年/監督・白井伸明/主演・石井雪江、山科ゆり)の後、『おんなの細道 濡れた海峡』で東北の場末ストリップ小屋を舞台に踊り子に純な愛情を捧げる朴訥な青年「ボク」をみごとに演じて見せる。さらに『恥辱の部屋』(82 年/監督・武田一成/主演・風祭ゆき)にも出演、武田一成作品で本領を發揮した。

この『おんなの細道 濡れた海峡』で三上寛の青年と行きずりの女を媒介にした妙な因縁でつながる中年男を演じたのが、石橋蓮司である。76 年、『江戸川乱歩猟奇館 屋根裏

の散歩者』で屋根裏から他人の部屋を覗く主人公の役でロマンポルノ初登場を果たす。続いて『赫い髪の女』でも宮下順子の女との愛欲生活を極めるダンプカー運転手役で主演した。

『赫い髪の女』には、石橋以外にも阿藤海（現・阿藤快）、三谷昇、山谷初男の個性派俳優が出演し、ロマンポルノ常連の高橋明、庄司三郎も加わって、さながら俳優豊饒の感がある。とって宮下、亜湖、山口美也子、絵沢萌子の女優たちもみごとなのだから、傑作の誉れ高いのも無理はない。

石橋は他に、『嗚呼！おんなたち 猥歌』にも姿を見せている。

『絶頂の女』（76年／監督・遠藤三郎／主演・山科ゆり）には、東映ニューフェイス出身で『仁義なき戦い』シリーズ（監督・深作欣二）など多くの作品に出演し悪役脇役の「ピラニア軍団」の一員でもあった成瀬正（後に正孝と改名）が、東映東京撮影所の製作主任から大部屋俳優に転じ『不良番長』シリーズ（監督・野田幸男、内藤誠、山下耕作）などで活躍した異色の役者・団巖とともに出演した。

成瀬の出演作は、他に『女高生トリオ 性感試験』（77年／監督・白井伸明／主演・小川恵、森川麻美、浅田奈々）、『刺青 IREZUMI』がある。団も『赤い花卉が濡れる』（77年／監督・西村昭五郎／主演・松永てるほ、梢ひとみ）、『性と愛のコリーダ』に出演した。

■劇団出身者が常連に

またこの時期は新しい常連俳優が数多く出現した。

子役出身でフランスの演劇学校で学び、帰国後劇団四季に在籍した中丸信（76-88 83年からは中丸新将）は、『修道女ルナの告白』（76年／監督・小沼勝／主演・高村ルナ、中島葵）から『輪舞』まで二十数本の作品でソフトな印象のさまざまな役を演じた。

人気グループサウンズのヴィレッジ・シンガーズのメンバーから役者に転向した林ゆたか（76-81）は、『暴行切り裂きジャック』で殺人者に堕ちていく屈折した若者を演じて注目された。『愛獣 悪の華』（81年／監督・加藤彰／主演・泉じゅん）の冷酷なヤクザなど凄味のある犯罪者役で本領を発揮する。

小劇団で演劇活動をしていた椎谷建治（76-83）は、『暴行！』から『色ざんげ』（83年／監督・西村昭五郎／主演・浅見美那、泉じゅん）まで、これまた強面系の役を演じた。

演出家から俳優に転じ統一劇団昂に所属した遠藤征慈（76-79）は、『学生情婦（せいがかまぶ） 処女の味』（76年／監督・小原宏裕／主演・八城夏子）の女子高生と愛し合ってしまう中年ヤクザでいい味を出し、『悶絶!!どんでん返し』では鶴岡修のサラリーマンを犯す男色趣味もあるヤクザ、『肉体の門』では焼け跡で逞しく生きる娼婦たちと絡む特攻帰りの風来坊と、アウトロー役で活躍した。

アングラ演劇をやっていた中原潤（76-87）は、『幼な妻 絶叫!!』（76年／監督・白鳥

信一／主演・渚りな)の駆け落ち少年役から、『妖艶 肉縛り』、『花と蛇 究極縄調教』(87年／監督・浅尾政行／主演・長坂しほり)のSMものまで幅広い役をこなした。

『キャンパス・エロチカ 熟れて開く』で女子大生のヒロインの周囲にいる東大生を演じた松風敏勝(77-81)は、『愛獣 赤い唇』(81年／監督・加藤彰／主演・泉じゅん)まで、主に脇役として20本を越す作品に出ている。

新劇から松竹にスカウトされて映画俳優となった石山雄大(77-83)は、『レイプ 25時暴姦』でタフな強姦魔でありながら男色集団三人組に犯されるという衝撃的な役でロマンポルノに登場した。『お嬢さんの股ぐら』(83年／監督・藤浦敦／主演・朝吹ケイト)まで10本ほどに出演した。

鏗堂連(77-84)は、『肉欲の昼下り』(77年／監督・加藤彰／主演・珠瑠美)から『女子大寮 vs. 看護学園寮』まで20本近い作品に出た脇役を務めた。

佐竹一男(77-86)は、『檻の中の妖精』で軍国主義下の憲兵隊が行うSM拷問に遭うヒロイン谷ナオミと命を懸けた愛を貫く下級憲兵を演じた。その後『芦屋令嬢 いけにえ』まで20本以上に出演している。

文学座演劇研究所を経て劇団青俳に所属、その間様々な職業に就いていた本田博太郎は、劇中の変態男や自殺願望OLに本物の片桐夕子や谷ナオミが対するという荒唐無稽な男女の追いかっこを描いた『性と愛のコリーダ』に出演し、翌78年まで5本のロマンポルノに脇役で出演した。その後79年の蜷川幸雄演出の舞台『近松心中物語』で、公演中突然腰を痛み降板した平幹二郎の代役をこなして評判をとり、スターになっていく。

この『性と愛のコリーダ』に本田の友人役で出演していた演劇集団・円の神田橋満(77-88)は、『新宿乱れ街 いくまで待って』で脚本を書いた荒井晴彦自身を彷彿とさせる主人公・沢井役で主演した。その後ロマンポルノから離れたが、84年と88年に1本ずつ出演した。『新宿乱れ街』には、『花の応援団』シリーズの団員役だった堀礼文(77-84)も出ている。

東大生舞台俳優として劇団四季や井上ひさし作品で脚光を浴びNHKの連続テレビ小説などテレビでも地位を得ていた矢崎滋が、暴漢に脅され眼の前で妻を犯される気の弱い夫＝主人公の少女の義兄役で『横須賀男狩り 少女・悦楽』に出演した。他にも、『希望ヶ丘 夫婦戦争』(79年／監督・西村昭五郎／主演・片桐夕子)、『宇能鴻一郎の濡れて開く』(79年／監督・西村昭五郎／主演・八代夏子)、『おさな妻』(80年／監督・白鳥信一／主演・原悦子)に出演している。

■ロック界の首領(ドン)がソープボーイに

だが、何とんでもインパクトがあったのは、永遠のロックンローラー内田裕也がロマンポルノに登場したことである。ATG作品『不連続殺人事件』(77年／監督・曾根中生／主演・瑛川哲朗、夏純子)で本格映画デビューした内田は、『実録不良少女 姦』で十代の

少女と同棲するヒモ男のいいかげんで捨て鉢な人間像をみごとに表現してみせる。

続いて『桃尻娘 ピンク・ヒップ・ガール』の刑務所帰りの男で助演、『エロチックな関係』の私立探偵で主演、若いロック・グループとそのグルーピーを扱った『赤い暴行』にロック界のスター役で顔を出し……とすっかりロマンポルノに根を下ろした。

そして内田裕也の名をロマンポルノの歴史にはっきり刻んだのは、『少女娼婦 けものみち』、『嗚呼！おんなたち 猥歌』の2本の神代作品だった。前者では16歳の少女と恋愛するダンプカー運転手役で、少女と真摯に向き合える中年男を演じ切ったのは内田の純粋なロック魂あつてのことだろう。後者は売れないロック歌手といううってつけの役柄で、自分の音楽を枉げずに貫く姿が胸をうつ。女性用ソープで性的サービスをする仕事を悪びれずこなすラストはこの率直に生きる「ロック馬鹿」の真骨頂である。

『実録不良少女 姦』は、グループサウンズのタイガースで「サリー」の愛称で売れた岸部おさみが岸部一徳を名乗りテレビで俳優になってから初めての映画出演をした作品でもある。ヒロインを気遣う担任教師役だった。そこではまだ初々しい感じがあったが、『ダブルベッド』では、ヒロイン大谷直子の夫役で、柄本明演じる男との三角関係を堂々と繰り広げてみせた。

音楽界からは、元ジャニーズの真家ひろみからテレビタレントになり改名した真家宏満が『東京チャタレー夫人』（77年／監督・藤井克彦／主演・志麻いづみ）でヒロインの半身不随の夫を演じた。また、ミュージカル劇団ミスタースリムカンパニーの中西良太が『本番 ほんぱん』（77年／監督・西村昭五郎）に山口美也子演じるヒロインのストリッパーを殺してしまうダメ情夫役で出演する。この年他に3本出た後、11年後のロマンポルノ最末期に『箱の中の女2』で次々と女性客を毒牙にかける嗜虐狂の山荘主人を演じた。

■ロック界の首領（ドン）がソープボーイに

この年あたりからは、男優が大挙活躍する作品が少なくない。風間杜夫が義経、小松方正が清盛を演じた『壇の浦夜枕合戦記』では人買い役の三谷昇（77-83）がロマンポルノ初出演を果たす。妻に裏切られ息子に疎まれる冴えない肉屋の親父を演じた『青い獣 ひそかな愉しみ』、強姦事件を起こした末に妻子を捨て蒸発した男を演じた『女教師 汚れた放課後』など極めて印象的な助演ぶりで、十数本に出演している。

古尾谷康雅（77-80 後に雅人）の高校生が永島瑛子の女教師を襲う『女教師』では、山田吾一が生徒指導主任、久米明が校長、穂積隆信が教頭で出演した。古尾谷康雅は、『人妻集団暴行致死事件』でも強姦する青年を演じるなど6本のロマンポルノに出た後、ATG作品『ヒポクラテスたち』（80年／監督・大森一樹）の主人公に抜擢され、いくつもの新人賞を得てスターになっていった。

『16歳 妖精の部屋』（77年／監督・加藤彰／主演・早瀬しおり）はヒロインの出生の秘密が話の核になっている。それを知りつつ彼女を育てる父親に内田良平、母親と不貞関

係にあった実の父に草薙幸二郎とベテラン俳優が起用された。内田は後年『悪魔の部屋』にも出演している。一方草薙は、『おんなの細道 濡れた海峡』でストリッパーを愛してしまった若者と対決する彼女の夫を好演し、『性的犯罪』では非道な債権者を演じて力量を発揮した。

『団鬼六 <黒い鬼火>より 貴婦人縛り壺』には、新劇のベテランで黒澤明や今村昌平の映画に出ていた演劇集団・円所属の高木均（77-84/ムーミンパパやトロの声優としても有名）が谷ナオミのヒロインを金の力で嫁にして弄ぶ老地主の役で演技力を発揮した。この作品のようなSMものを中心に10本くらいに出演している。

■ロマンポルノに暴力性を吹き込んだ今井健二

78年には、さらに多くの既成人材がロマンポルノに参入してくる。これには前年から始まったエロス大作路線が起因している。上映時間1時間半の作品が年に数本作られるようになり、予算も通常路線と比べればそれなりに用意されたため、社外の既成俳優をキャスティングしやすくなったのである。

エロス大作としてラクロ原作の『危険な関係』が新藤兼人脚本、藤田敏八監督で映画化され、テレビドラマや一般映画で活躍していた宇都宮雅代がヒロインに起用された。その相手役として、宇都宮と結婚したばかりの三浦洋一が出演している。当時は、つかこうへい劇団で売り出した若手人気俳優だった。

この映画では、テレビの戦隊ものヒーローだった風戸佑介（78-79）がロマンポルノ出演を果たし、幼年までに5本ほど出演した。

『危険な関係』と二本立て併映の『教師 女鹿』（78年/監督・曾根中生/主演・栄ひとみ）には、東宝作品に多く出演していた青年座の大塚国夫が出ている。

同じくエロス大作『人妻集団暴行致死事件』には、東映ヤクザ映画の悪役で名高い室田日出男が若い妻を集団暴行で亡くす初老の男の役で主演する。また、戦後まもなく新劇の舞台に立ち山本薩夫や今井正の作品によく出ていたベテラン陶隆司が集団暴行犯の若者の父親役で出演している。

集団暴行に及ぶ3人の若者には、『女教師』の古尾谷康雅のほか、新人・酒井昭（78-84）と日活一般映画の大ヒット作『嗚呼!! 花の応援団』シリーズで1回生・北口役の現役大学生・深見博（78-84）の初ロマンポルノ作品となった。深見は、印象に残る脇役として十数本に出演した。『嗚呼!! 花の応援団』組からは、団員役と擬斗を担当した現在は映画監督でスタント・コーディネーターの高瀬将嗣（78-84）も、『高校エマニエル 濡れた土曜日』（78年/監督・斎藤信幸/主演・水島美奈子）を皮切りに数本出演している。

大ヒット曲を映画化したエロス大作『時には娼婦のように』では曲の作詞者であるなかにし礼が、原案、脚本、音楽、主演をこなした。作詞家仲間の中山大三郎、星野哲郎がゲスト出演している。脇役でこの映画がロマンポルノ初出演の関川慎二（78-84）は10本

内外の作品に出演した。

高倉一志の名で 60 年代初めのアイドルだったスリーファンキーズのメンバーとして活動した後、改名してソロ歌手から俳優になった藤健次は、この年『修道女ルシア 辱くけがす』(78 年/監督・小原宏裕/主演・野平ゆき) など 3 本に出演した。

50 年代後半東映でデビューし、フリーになった 60 年代以降は東映を中心に各社のヤクザ映画で凄味のある悪役ぶりを発揮してきた今井健二が、『暴る!』の刑事役で顔を出してくれたのは、日本映画ファンにとって応えられない贈り物だった。今井が一人加わっただけで、この映画の持つ暴力性が一気に増す。

松竹、大映などで中堅スターだった山下洵一郎(78-82)は『性愛占星術 SEX 味くらべ』(78 年/監督・曾根中生)でロマンポルノに登場する。ヒロイン宮下順子と不倫関係にある彼女の勤務先の社長を演じた『濡れた週末』など 8 本に出演した。

新劇の中堅で映画・テレビに多数出演していた本郷淳(78-82)が本郷惇名義で『おんなの寝室 好きくらべ』(78 年/監督・白鳥信一)にヒロイン宮下順子の愛人である社長役で出演した。『希望ヶ丘夫婦戦争』からは本郷淳に戻り、『ハードスキャンダル 性の漂流者』(80 年/監督・田中登/主演・亜湖)では夫婦交換、『奴隷契約書』では SM とアブノーマルな性欲に溺れる中年男を演じて力量を発揮した。

同じ俳優座出身の原田芳雄の付き人を兼ねて映画、テレビに出演していた阿藤海は、『襲う!!』で初出演した後、『赫い髪の女』と『ワイセツ家族 母と娘』に出ている。

演劇集団・円からは多くの俳優がロマンポルノに来ているが、金田明夫(78-88)もそのひとり。『果てしなき絶頂』(78 年/監督・加藤彰)のヒロイン青山恭子の弟役でデビューした。末期の『輪舞』まで十数本に出演している。

■北見敏之の登場

この年最も大きな収穫は、『さすらいの恋人 眩暈 くめまい』に主演した北見敏之(78-85)である。演劇集団・円で舞台に立っていた北見は、ヒロイン小川恵との薄幸の恋愛を美しく演じ、一躍注目された。ロマンポルノで男優が最初から観客の記憶に残るのは珍しい。

51 年生まれの北見敏之は、同世代である根岸吉太郎監督の『朝はダメよ』以降『キャバレー日記』まで全作品に出るなど二十数本に出演している。『闇に抱かれて』では、鶴岡修とのコンビで独特の雰囲気を出した。

『さすらいの恋人 眩暈 くめまい』で北見を痛めつける側の学生役でロマンポルノに登場したのが草薙良一(78-88)である。『天使のはらわた 赤い教室』で水原ゆう紀の名美を支配するヤクザを演じて名をあげた。ロマンポルノ最終期の『ラストキャバレー』に至るまで 30 本近い作品に出演している。

『トルコ 110 番 悶絶くらげ』にも、印象的な若者が描かれる。どうやら学生運動崩れ

らしいトルコ風呂の呼び込み青年を演じたのが星野暁一（78-80）である。

また、ロマンポルノに欠かせない男子高生役では高橋淳（78-80）が『私は犯されたい』でデビューし、ヒットシリーズ『桃尻娘』三部作で竹田かほり＝レナ、亜湖＝裕子の女子高生コンビにくっついている「オカマの源ちゃん」役を演じて観客から親しまれた。

『桃尻娘』には元アイドル歌手の野上祐二（78-87）も同級生役で出ている。末期の『小林ひとみの令嬢物語』（87年／監督・池田賢一／主演・小林ひとみ）まで10本を超す作品に出演した。なお、元タイガースで岸部一徳の弟である岸部シロー（後に四郎、現在は再びシロー）も『桃尻娘』に顔を出している。

『情事の方程式』で父親に反抗する主人公の少年を演じた加納省吾は、同年『青い獣 ひそかな愉しみ』でも三谷昇扮する肉屋の親父の息子として父親と闘う。ただしロマンポルノ出演は、この2作に終わっている。

『天使のはらわた』シリーズの先駆けとなる『女高生 天使のはらわた』には、この映画の脚本を書き出演もしている実兄の深水龍作率いる劇団ミスタースリムカンパニーの看板役者・深水三章が妹思いの暴走族リーダー役で主演した。後に『不倫』（86年／監督・曾根中生／主演・児島美ゆき）にも出演している。兄の深水龍作は、『赤い暴行』、『夕ぐれ族』と、曾根中生作品にあと2本出演した。

暴走族メンバーで出演した同劇団の河西健司（78-85）は、『天使のはらわた 赤い教室』にも引き続き出演し、『禁じられた体験』（79年／監督・西村昭五郎／主演・日向明子、宮下順子）では双子の妹との近親相姦関係にある男、『スケバンマフィア 肉刑』ではスケバンの恋人、『モアセクシー 獣のようにもう一度』（81年／監督・加藤彰／主演・畑中葉子）では美人局のコンビなど、ハスキーな声に迫力を感じさせる暴力男の役で強い印象を残した。

■菅原文太が特別出演

79年は、『天使のはらわた 赤い教室』『天使のはらわた 名美』『赫い髪の女』と、これまで外部から流入してきた男優たちの腕の見せどころのような映画が作られ、ロマンポルノにおける男優の役割がはっきりと確認されたと言っていい。

エロス大作『もっとしなやかに もっとしたたかに』には、先述の風間杜夫、蟹江敬三、河原崎長一郎、加藤嘉だけでなくベテラン脇役の梅津栄がロマンポルノ初出演している。梅津は、後に『レイプハンター 狙われた女』（80年／監督・澤田幸弘／主演・岡本ひろみ）にも出演した。

そうした豪華な男優陣に囲まれて主演したのが奥田英二（後に瑛二）である。まだ若い身で妻子がありながら小娘に引っ掻き回される半端な男を、みごとに体現した。次に出演したATG作品『もう頬づえはつかない』（79年／監督・東陽一／主演・桃井かおり）で一気にブレイクし、トップ男優への道を進んでいく。奥田の出発点は、ロマンポルノなの

である。

池波志乃を主演に招いたエロス大作『白く濡れた夏』（79年／監督・加藤彰）には、映画、テレビで知られた長谷川明男と、歌手出身の青春スター南條弘二がヒロインを争う中年男と若者の役で競演した。南條は、『女帝』にも出演し『双子座の女』では二人の女に翻弄される男の役で存在を示した。

『墮塵泥（ダビデ）の星 美少女狩り』は、東映の大ヒットシリーズ『トラック野郎』などで有名な鈴木則文監督を招いたエロス大作である。それゆえ、なんと菅原文太がトラック運転手役で特別出演した。青年座のリーダー格であるベテラン森塚敏も出演している。中でも、莫大な財産を漁色につぎ込む数奇な運命の若者の父親役で名和宏（79-85）が貫禄を見せている。日活を振り出しに松竹、大映、東映と渡り歩いて悪役として地位を確立していた名和は、『紅夜夢』（83年／監督・西村昭五郎／主演・親王塚貴子／小林稔侍も出演している）、『団鬼六 美教師地獄責め』でサドの中年男を憎々しく演じるなど4本に出演した。

■ロマンポルノの最年長出演者

『Mr. ジレンマン 色情狂い』は通常サイズの作品とはいえ、話題の一作だった。

この年3月、三本立て興行のためロマンポルノに付ける買い取りピンク映画として企画された『赤塚不二夫のギャグ・ポルノ 気分を出してもう一度』（79年／監督・山本晋也／主演・柄本明、宮井えりな）が、赤塚不二夫自身が出演し由利徹、たこ八郎なども出たことでメディアの注目を浴びる。すかさず第2弾として『下落合焼きとりムービー』（79年／監督・山本晋也）が一般映画として作られ、赤塚、所ジョージ、タモリ、宇崎竜堂らの出演で6月に東映で封切られた。

そこで本元の日活が10月に公開したのが、『Mr. ジレンマン 色情狂い』なのである。『気分を出して…』で主演し、『下落合…』にも出演した柄本明が主演に起用され、彼の劇団・東京乾電池のメンバーである高田純次、綾田俊樹、ベンガル、小形雄二が脇を固めた。女優陣も裸を披露はしているが、この映画の眼目はあくまで男優陣によるスラプスティック喜劇部分であり、異色のロマンポルノと言えよう。

その後柄本明は『ダブルベッド』に主演し、大谷直子、石田えりの演じる二人の女の間をふらつく男を、独特の呼吸で演じきった。末期の『天使のはらわた 赤い眩暈』にも出演している。

『むちむちネオン街 私たべごろ』では「東映ピラニア軍団」の根岸一正が義妹であるホステスと同棲する男の役で登場した。後の『刺青』ではヒロイン伊藤咲子に刺青を施して売り飛ばそうとする凶悪なヤクザを演じ本領を發揮する。

SFポルノ『桃子夫人の冒険』（79年／監督・小原宏裕）には、ヒロイン日向明子の演じるサイボーグを作らせた老人役で伊沢一郎が出演した。1912年生まれの伊沢はこの年67

歳。おそらくロマンポルノの最年長出演者ではなかろうか。75歳のときの『嵯峨野の宿』（87年／監督・島宏／主演・三原じゅん子）まで4本に出演している。

この時代まだ無名だった新世代の劇団・夢の遊民社所属の田山涼成（79-87）が、『ひと夏の秘密』（79年／監督・武田一成／主演・原悦子）でロマンポルノに入ってきた。若いのに篤実そうな容貌の田山のキャラクターは貴重で、それが最も効果を発揮したのは『縄と乳房』のSMショーをするコンビの男の方である。また、『スチュワーデス・スキャンダル 獣のように抱きしめて』の女装趣味の占い師も忘れられない。十数本に出演している。

『宇能鴻一郎の女体育教師』（79年／監督・小原宏裕／主演・鹿沼えり）でデビューしたのが60年生まれでまだ十代の堀広道（79-82）である。男子高生役がうってつけだった。『女教師 生徒の目の前で』での自閉症の少年が印象的だ。5本出て、その後はテレビ、舞台などでも活動している。

『ホールインラブ 草むらの欲情』（79年／監督・林功／主演・山口美也子）などに出た白山英雄（79-84）は、10本余りの作品に出演している。

■石田純一が暴走族のリーダーに

80年年頭公開の『赤い暴行』に主演し音楽と主題歌も担当したロックバンド DEVILS（デビル／英語表記は複数形Sがついているがカタカナ表記ではスはつかない）は、高橋不二人（ヴォーカル、ベース）、相良光紀（サイドギター、ヴォーカル）、ジェームス・ハント（リードギター、ヴォーカル）、伊藤達明（ドラム、ヴォーカル）の4人編成。内田裕也や深水龍作が出演したほか、ガンアクション始動で知られるトビー門口が顔を見せている。

『レイプハンター 狙われた女』には、澤田が当時テレビの「探偵物語」を監督していた縁で、レギュラー出演者の松田優作、山西道広、清水宏が特別出演してくれている。

『暴行儀式』で、暴走族に憧れていた少年たちから暴行を受ける元暴走族のリーダーを演じていたのは石田純（後の石田純一）だった。同年、にっかつの一般映画『鉄騎兵、跳んだ』（監督・小沢啓一）の主役に抜擢され、スターへの道を歩み始める。

77年の『壇の浦夜枕合戦記』『性と愛のコリーダ』二本立てで復活したロマンポルノのゴールデン・ウィーク興行は、78年から3年連続で『桃尻娘』が主軸となってきた。この年の『桃尻娘 プロポーズ大作戦』には、元人気ロック歌手鹿内タカシが改名して俳優に転じた鹿内孝が出演している。

二本立てで併映されたのは『おさな妻』である。当時人気絶頂のヒロイン原悦子の夫役は山本伸吾（80-85）が務めた。三浦友和の音楽グループに属していた関係で東宝青春映画に出演していた山本の清潔感、幼な妻を気遣う青年にぴったりだった。『OL百合族 19歳』など5本に出演した。

NHK「おかあさんといっしょ」で「バクおじさん」と子どもたちに慕われ、ワイドショーのレポーターも務めた劇団仮面座舞台俳優の沼田爆（80-82）は、『女高生 夏ひらく唇』（80年／監督・加藤彰／主演・太田あやこ）に画廊主人役で出演した。都合4本出ている。

■大物女優の脇には大物男優を

81年のお正月興行『百恵の唇 愛獣』には、レコード大賞をめぐるサスペンスで陰謀をめぐらすマネージャー役で東映ピラニア軍団の大物・小林稔侍（80-84）が登場する。『愛獣 襲る！』の刑事など7本に出た。また『百恵の唇 愛獣』には、戦後すぐからの舞台俳優で映画にも多数出演した成瀬昌彦（80-83）が、財界の大物役で出演している。『未亡人の寝室』（81年／監督・斉藤信幸／主演・志麻いづみ）の老小説家など5本で老人役をこなした。

東映の悪役、斬られ役で夥しい数の作品に出演した汐路章が、『制服体験トリオ わたし熱れごろ』（81年／監督・西村昭五郎）に男子高生の祖父役で女子高生トリオ（北原理絵、寺島まゆみ、太田あや子）から性戯責めに遭うとは……。日本映画ファン驚愕の光景だった。『ワイセツ家族 母と娘』でも、母娘から誘惑されるやもめ老人で濡れ場をこなした。

『狂った果実』には、『また逢う日まで』（50年／監督・今井正）など50年代から60年代にかけて日本映画を代表するスターの一人であった岡田英次が、ヒロイン蜷川有紀と肉体関係を持つ義父の役で登場して驚かせた。また、この映画には、お笑いタレントをしていたアパッチけん（後に中本賢）が俳優として出演している。

この年のお盆興行映画『ラブレター』は、詩人の金子光晴の愛欲生活を描いた文芸ポルノである。失踪事件からの復帰作とはいえ関根恵子（後に高橋）というロマンポルノ史上最高のスター女優を得て、詩人役には中村嘉葎雄、助演に仲谷昇と大物俳優を配した。

また、この作品にはテレビで売り出した舞台俳優の西田健が出演している。西田は、後に『マダム・スキャンダル 10秒死なせて』（82年／監督・西村昭五郎／主演・五月みどり）の詐欺師、そして『初夜の海』では3人の美女を相手にする遊び人役で堂々たる主演ぶりを見せた。

『ラブレター』の併映作『モアセクシー 獣のようにもう一度』には東映「ピラニア軍団」の片桐竜次がヤクザ実麻薬Gメンという役で出た。片桐はほかに、『牝猫』『双子座の女』の山城新伍監督作に出演している。また『獣のように〜』には、『キューポラのある街』（62年／監督・浦山桐郎／主演・吉永小百合）などの名子役だった市川好朗が出ているのも見逃せない。

『悪女軍団』には中尾彬が悪役で出演した。中尾は、後の『双子座の女』で、愛人のために妻を殺してしまった元大学教授が出所後女に裏切られ自殺するという難役をこなしている。

先述の『嗚呼！おんなたち 猥歌』には、イラストレーターの黒田征太郎が特別出演するとともに、実際にも内田裕也の舎弟格である安岡力也が内田演じるロック歌手に最後まで尽くすマネージャー役で出演した。安岡は、直後に公開された『セクシー・ぷりん 癖になりそう』にも出ている。この映画には、青空はるお・あきおコンビの漫才から改名して俳優に転じた横山あきおも出演している。

俳優座の俊英だったにもかかわらずトラブルにより除名された後はテレビ、映画で活躍していた大林丈史（81-87）が『もっと激しくもっとつよく』（81年／監督・田中登／主演・川村真樹）でロマンポルノにお目見えした。『私の中の娼婦』（84年／監督・武田一成／主演・田坂都）の他の男のところで死んだ妻の散骨をする夫や『美姉妹 剥ぐ』のヒロイン赤坂麗の会社の上司など知的な中年男役で7本の出演本数を持つ。

『婦人科病棟 やさしくもんで』では、舞台俳優で時折テレビや映画に出ていた信実一徳（81-88）が子連れやもめのカメラマンを演じた。信実は、最末期の『冴島奈緒 アクメ記念日』（88年／監督・瀬川正仁／主演・冴島奈緒）まで10本ほどに出演し、ほとんどの作品で重要な役を演じている。

■自主映画ルートから出てきた内藤剛志

この時期に特徴的なのは、ロマンポルノにも従来とは全く違うルートから現れた男優がスタートしたことである。それまでは、演劇、歌手、テレビ、商業映画のいずれかを経験している者ばかりだった。自主映画など商業原理とは離れたところから新しいタイプの男優が登場してきたのである。

岡田英次の出演した『狂った果実』の主人公を演じた本間優二は、高校中退で暴走族「ブラック・エンペラー」の会長をしているときにドキュメンタリー『ゴッド・スピード・ユー！ BLACK EMPEROR』（76年／監督・柳町光男）を介して映画の世界につながった。自主映画『十九歳の地図』（79年／監督・柳町光男）にいきなり主演する。これで評判になり、いくつかの映画、テレビ出演を経て『狂った果実』に抜擢されたのである。純情でありながら社会から疎外されていく青年を、等身大のリアルで演じてみせた。

前記『もっと激しくもっとつよく』で大林丈史の息子役だった山田辰夫は、大学時代に仲間と作った劇団に打ち込む中、自主映画『狂い咲きサンダーロード』（80年／監督・石井聰互）に主演した。それが目にとまったのロマンポルノ起用である。エネルギーの使いどころを見つけ出せない若者の役がぴったりだった。後に『双子座の女』にも出演している。

『愛獣 悪の華』に起用された内藤剛志（81-87）は、大学時代から自主映画製作に打ち込み、中退後『ユキがロックを棄てた夏』（78年／監督・長崎俊一）、『ハッピーストリート裏』（79年／監督・長崎俊一）、『アナザ・サイド』（80年／監督・山川直人）といった自主映画に出演していた。『美姉妹 犯す』で美姉妹を誘惑する青年、『美加マドカ 指

を濡らす女』で美加マドカ扮するストリッパーに尽くす純情な若者を演じるなど8本に出た。

『キャバレー日記』で主人公を演じた伊藤克信は、自主映画『の・ようなもの』(81年/監督・森田芳光)に主演したことでそのユニークなキャラクターを見込まれた。少し空回り気味に仕事に打ち込むキャバレーのボーイの哀歓を醸し出して期待に込めている。森田芳光が撮った『ピンクカット 太く愛して深く愛して』にセクシー床屋に入り浸る大学生で主演、『残酷!少女タレント』にも出演している。

『絶頂姉妹 墮ちる』の趙方豪(82-85)は、学生時代に準主役で出た自主映画『ガキ帝国』(81年/監督・井筒和幸/主演・島田紳助、松本竜助)で一躍注目され、東映の商業映画になった続編『ガキ帝国 悪たれ戦争』(81年/監督・井筒和幸)では主役を務めた。9本に出演し、『春画』の落ちぶれた元ボクサーの空き巣狙い、『未熟な下半身』の妻がありながら女子高生と同棲するギャル雑誌編集者などが印象深い。

本間優二、山田辰夫、内藤剛志、伊藤克信、趙方豪は、いずれも自主映画に出演して頭角を現した。また、彼らを引き出した柳町光男、石井聰互、長崎俊一、山川直人、森田芳光、井筒和幸といった監督たちは、80年前後に自主映画を引っ提げて颯爽と登場した新世代である。映画会社や撮影所と関係なく、映画を撮ってきた。

ロマンポルノは、若い男優たちを通してこれら新しい日本映画の胎動をいち早く掴み込んでいった。やはり自主映画出身でATG作品『ヒポクラテスたち』に内藤剛志を使った大森一樹は、この映画の主演に、逆にロマンポルノから古尾谷雅人を引き抜いている。また、女優でも山川直人の『アナザ・サイド』、石井聰互の『シャッフル』(81年)、森田芳光の『の・ようなもの』、大森一樹の『風の歌を聴け』(81年/主演・小林薫、真行寺君枝)に出演した室井滋が、小沼勝の『女囚 檻』、『スチュワーデス・スキャンダル 獣のように抱きしめて』に出演している。

■ピンクから参入してきた大杉漣

また、この時期のもうひとつの特徴として、もっぱらピンク映画で仕事をしていた男優たちが一部ロマンポルノに進出してきたことが挙げられる。

60年代初めのピンク映画草創期から出演してきた港雄一(79-87)は脇役で8本ほど顔を出した。『白い天使の誘惑』で看護婦に囲まれる医師を演じた同じくベテランの野上正義(72-86)は、その後の空白を挟んで80年頃から十数本に出ている。

これらのベテランから、『襲われる女教師』で準主演など数本に出演した下元史朗(82-87)、『団鬼六 美女縄化粧』、『スキャンティドール 脱ぎたての香り』(84年/監督・水谷俊之/脚本・周防正行/主演・小田かおる)の2本に出た大杉漣、数本出演歴のある山路和広(83-87)、82、83年にそれぞれ1本出た中根徹、それぞれ10本ほど出た坂田祥一朗(現・雅彦)(82-87)、上野淳(81-84)、滝川昌良(82-88)の若手まで、ピ

ンク映画で活躍中の男優がロマンポルノにも。

ただし、彼らの主戦場はあくまでピンク映画である。この時期のピンク映画は、60年代に続く第二の興隆期を迎えていた。木俣堯喬、西原儀一、小林悟などの第一世代、そこに政治性や新奇なアイデアを持ち込んだ若松孝二、山本晋也などの第二世代に続く第三世代とも呼ぶべき若い監督たちが、次々と力作を送り出す。高橋伴明、中村幻児、和泉聖治、井筒和幸、磯村一路、福岡芳穂、水谷俊之、米田彰、周防正行…

おっと、これはロマンポルノ論だった。この時期のピンク映画については、改めて別の機会に詳しく論じたい。これらの監督の幾多の秀作に重要な出番を振られていた前述の男優たちも、ロマンポルノにおいてはそれほど精彩を発揮する場面を与えられなかった。もう少し後、80年代後半のロマンポルノ末期になるとピンク映画との境界線が薄れ、監督や脚本家も相互に往還し始める。ピンク映画男優たちがそれに先がけてロマンポルノに入っていたことは、改めて銘記しておこう。

■80年代のロマンポルノを代表する男優・阿部雅彦

話をロマンポルノに戻す。

81年末に公開された『天使のはらわた 赤い淫画』では、60年生まれという新人・阿部雅彦（81-88）が村木役に抜擢され、名美＝泉じゅんに純情な愛を捧げる若者像で一躍目を引いた。続いて阿部は『ピンクのカーテン』でヒロイン美保純と危うい近親相姦の兄妹愛を繰り広げる兄を演じ、この作品が大ヒットして三部作となるすべてに主演して知名度をも高める。

阿部雅彦こそ、80年代のロマンポルノを代表する男優である。『3年目の浮気』の浮気夫、『いたずらロリータ 後ろからバージン』の夕方になると人間になる人形に恋する男、『赤い縄 果てるまで』の凄絶なSM性愛に堕ちる男など、男優の存在が極めて重要な作品が相次いだ。

ロマンポルノ最終作『ラブゲームは終わらない』まで13本になる阿部の出演作は、神代、田中、西村といった戦前生まれのロマンポルノ出発時から活躍した監督の作品が1本もない。池田、上垣、中原、那須、堀内、金子、すずき、そして金澤と、全員戦後生まれの若い監督である。その意味でも、新世代が次々登場する80年代のロマンポルノを代表する男優なのである。

もうひとり、「中年の星」のように40歳を過ぎて80年代のロマンポルノに登場し、強い印象を残したのが上田耕一（82-88）である。伊藤克信が主演した『キャバレー日記』の店長役で初出演。演劇、テレビドラマで積んだキャリアを生かし、『OL百合族19歳』では左遷され自殺を考える課長、『スチュワーデス・スキャンダル 獣のように抱きしめて』の機長など印象的な中年男像を提示して、中年ライダーを演じた『ラブゲームは終わらない』まで出続けた。

中堅どころでは、俳優出身でやはり演劇、ドラマで経験豊富な鶴田忍（82-88）が『聖子の太股 ザ・チアガール』（82年／監督・川崎善広／脚本・金子修介／主演・寺島まゆみ）で初出演し、こちらも随所で個性を發揮した。上田も鶴田も、ロマンポルノに出たのをきっかけに存在を認知され、一般映画でも貴重な脇役役者になっていく。

『キャバレー日記』に主人公の同僚店員役で出た掛田誠（82-84）は、三枚目として3本に出演する。ヒロイン美保純の恋人である中年男役で『ピンクのカーテン』シリーズにレギュラー出演した望月太郎（82-88）は、『ラブゲームは終わらない』と二本立ての最終作『ベッド・パートナー』まで息長く活動した。

テレビの人気子役で主演の「ケンちゃん」シリーズまでできた宮脇康之がストリップ嬢に入れ込む純情青年を演じた『恋噂のストリッパー』で、ストリップ小屋の呼び込みに扮した佐藤恒治（83-86）は脇役でいくつかの作品に顔を出した。

また、81年お盆興行の『ラブレター』以来、過去の人気女優や歌手に主演させるエロス大作や有名作家の原作を得た文芸ポルノの路線が定着し、それにつれて男優の幅も広がっていく。

■懐かしい顔ぶれを揃えた『女帝』

82年のゴールデン・ウィークに公開された笹沢佐保原作の『悪魔の部屋』には、元人気バンド「キャロル」のジョニー大倉、知的な二枚目で社会派映画でも活躍していた堀内正美が出演した。前者は、後に『魔性の香り』にも出演する。

お盆興行で高田美和主演の『軽井沢夫人』には、東映現代劇の人気スターだった江原真二郎、テレビドラマの二枚目・五代高之、黒澤作品でおなじみの土屋嘉男が出演している。土屋は『ルージュ』にも出た。

併映で大信田礼子主演の『ジェラシー・ゲーム』（82年／監督・東陽一／主演・大信田礼子）には60年代に東宝の青春人気スターだった夏木陽介、テレビ「仮面ライダー」でブレイクしたばかりの村上弘明が出演している。

83年のお正月映画『赤いスキャンダル 情事』（82年／監督・高林陽一）には新劇の渋い名優・西沢利明が出た。

ゴールデン・ウィークの黛ジュン主演『女帝』には東映のスターだった大木実、谷隼人、日活、東映で活躍した川地民夫、新東宝、大映、東映と渡ったスター天知茂という懐かしい顔ぶれが揃った。併映の笹沢佐保原作『悪魔の人質』（83年／監督・加藤彰／主演・沢田和美）には、松竹の青春映画『童貞』（75年／監督・貞永方久）に主演するなどしていた重田尚彦が出演している。重田は後に『お嬢さん探偵 ときめき連発!』（87年／監督・黒沢直輔／主演・西脇美智子、水島裕子）にも出た。